

夫人情者、聖王之田也。世治則學稼自茂、樂曲者明時之玩也、政調則德音遍聞、我后一條一莅民以來、學官逢時、樂署得所、日慎一日、盡傳延喜之舊儀、風罷三風、已開長保之寶曆、於是守庚申、而不廢延齡之術、賞佳辰、而不忘樂善之心。略○中

七夕守庚申同賦織女理容色應製略○中

七言夏夜陪左相府池亭守庚申同賦池清知雨晴應教一首并序以深爲韻

左相府尊閣者、希代榮貴之器也。略○中相府之仕朝焉亦爲一佛乘也、是以每年展三十講之梵席、歷日叩八萬歲之疑關、以珍貨供養、以詩篇讚揚、今夜之庚申、蓋在斯而已。略下

〔大鏡右大臣師輔〕元方民部卿のむまご、まうけの君親王廣平にておはするところ、みかどの御庚申せさせ給ふに、この民部卿まいり給へるさらなり、九條殿藤原さぶらはせ給ひて、人々あまたさぶらひて、どうたせ給ふついでに、冷泉院のはらまれおはしましたるほどにて、さらぬだによひといかゝとおもひ申たるに、九條殿こよひのすぐろくつかうまつらんとおほせらるゝまゝに、これはらまれ給へるみこをとことおはすべくは、でう六いでことてうたせ給ひけるにたゞ、一どにいでくるものか、ありとある人めを見かはしてかんじもてはやし給ひ、わが御みづからもいみじとおぼしたりけるに。略下

〔親信卿記〕天延元年三月六日庚申、今日有御庚申事、其儀上西廂南渡殿南御簾、其内敷滿侍小疊六枚、爲應召絃管侍臣座、南臺西欄板鋪小板鋪長疊爲同座、儲饌於侍所、隨召衝重兩三前居渡殿座通宵御遊、臨曉更給祿四位白絹一疋、五位六位童等各疋絹、四連男女房事了各退出

〔源順集〕初の冬、元年、かのえさるの夜、伊勢のいつきの宮にさぶらひて、松のこゑよることにいるといふ題にて奉る歌の序。

いせのいつきの宮○村上皇秋野の宮にわたり給ひて後、冬の山風さむくなりての初、はつ